輝く学年団を訪ねて

楽しく学び続ける仕かけづくりと気持ちを前向きにする声かけを続ける

大阪府・私立箕面（みのお）自由学園高校　3学年団

同校への志願者数の増加によって、同校史上最多（当時）の新入生を迎え入れた2019年度1学年団。ベテランから初任まで多様なキャリアの教師を牽引する学年主任（当時）の大東（おおとう）先生が最も大切にしたのは、生徒や教師に前向きな言葉をかけ続ける、ポジティブ思考の学年団づくりだった。

直面した課題

◎入学者の多くは、中学校時代に手がかからなかった学力中位層の生徒で、教科学習の面で大きな壁を乗り越えた経験に乏しかった。また、学習を計画的に進める力が十分ではなかった。

◎高い目標に向かって努力を続ける中での喜びを味わわせ、「この学校に来てよかった」といった気持ちで卒業させたいと考えた。

学校概要

「豊かな自然環境を基盤に、体験と実践を通して、伸び伸びと個性を発揮できる、教養高い社会人を育成する」を建学の精神とする。Ⅰ類として難関国公立大学合格を目指すSS特進コース・スーパー特進コース・特進コース、Ⅱ類として受験学力の向上とともに英語教育とキャリア教育に力を入れる文理進学コース、クラブ推薦入試制度により入学した生徒を集めたクラブ選抜コースを設置。日本選手権大会9連覇を誇るチアリーダー部など、全国レベルで活躍する部活動も多い。

設立　1951（昭和26）年
形態　全日制／総合学科／共学
生徒数　1学年約560人
2021年度入試合格実績（現浪計）　国公立大は、北海道大、滋賀大、大阪大、東京都立大、大阪市立大、大阪府立大、兵庫県立大などに66人が合格。私立大は、法政大、明治大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ959人が合格。

手がかからなかった生徒に、適切に手をかけてあげたい

近年、志願者数が急増している私立箕面自由学園高校。「生徒の多くは、中学校時代、いわゆる手のかからなかった学力中位層です」と、2019年度1学年団の学年主任を務めた大東範行（おおとうのりゆき）先生は説明する。

「中学校時代に教師の手を煩わせることがなかった分、手をかけてもらったことも少なく、強い意志と計画性を持って壁を突破した経験が乏しい生徒が少なくありません」

19年度1学年の担任の瀬戸口亜希先生は、一部の生徒の自己効力感の低さに驚かされることがあったと振り返る。

「3年間しっかり勉強すればこんな大学を目指せるよと説明しても、『私には無理です』と、自分の可能性を信じ切れない生徒が目立ちました。また、1年生の家庭学習時間は1日100分間という目標に対して、『100分間も何を勉強すればよいのですか。どうすればそんな時間を確保できるのですか』と、自分で学習の見通しを立てられない生徒もいました。進路面も学習面も、生徒の実態に寄り添った支援が必要だと感じました」

大東先生は学年団に所属する教師に、「生徒は、本当は自分のことを見てもらいたいはずです。手のかからないおとなしい生徒が秘めた承認欲求を見逃さないようにしましょう」と、学年としての指導方針を共有した。

「この学校に来て人生が変わった、この学校を選んで本当によかったと、すべての生徒に思ってもらうことを目標に、高校3年間の指導をスタートさせました」（大東先生）

楽しく学ぶ雰囲気をつくり、学校への帰属意識を高める

学年団はまず、学習習慣の定着に力を入れた。通学途中などでの隙間学習も加算してもよいからと、毎日100分間の家庭学習を生徒に呼びかけた。学年全員で取り組む雰囲気をつくるため、100分間以上学習に取り組めた生徒にシールを与え、クラス間でシールの数を競うようにした。

大東先生が重視したのが、楽しく学習を続けられる仕かけづくりだ。「若手教師も遠慮せずにアイデアを出してほしいと声をかけてもらいました」と山口哲司（さとし）先生は振り返る。

「廊下の壁をすごろくに見立てて、朝学習に取り組んだ時間に応じて壁に貼った自分のシールを移動させる『おはようスタディ』では、生徒は楽しみながらお互いの学習時間を競っていました（P.40写真）。廊下の壁に大

リーダーに聞く！5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A みんな仲よく、いつも笑顔で、何でも相談できるチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？

A しんどいことこそ、自分が率先してやるということです。

Q 学年団としての「成功」は？

A いろいろなキャリア、年齢の教師が一致団結できていることだと思います。

Q リーダーとして自覚する長所は何ですか？

A 明るく、前向きなところです。学校外の方から生徒の行動に対するお叱りの電話をいただく時も、職員室の先生方に「僕の電話応対を聞いていてください」という気持ちで、寄せられる声に真摯に向き合います。

Q リーダーとして自覚する短所は何ですか？

A 朝令暮改が多いところです。前向きに言えば、少しでもよくなる可能性があるのなら、前言を翻すことをいとわないということです。そして、自他ともに認める雨男です。

学の名前を掲示したのは、学習の積み重ねによって大学に合格できることをイメージさせるのと同時に、大学への興味を喚起させるためです。また、家庭学習の習慣づくりを支援するため、瀬戸口先生発案の『9（ナイン）グリッシュ』という企画も実施しました。『Classi』（＊）を通じて英語の問題を配信し、一番早く学習を開始した生徒の名前を校内の掲示板で紹介し、たたえるというものです」

『おはようスタディ』や『9グリッシュ』に取り組む中で、クラスメート同士で学習時間の目標を設定し、互いに励まし合う姿も見られるようになった。

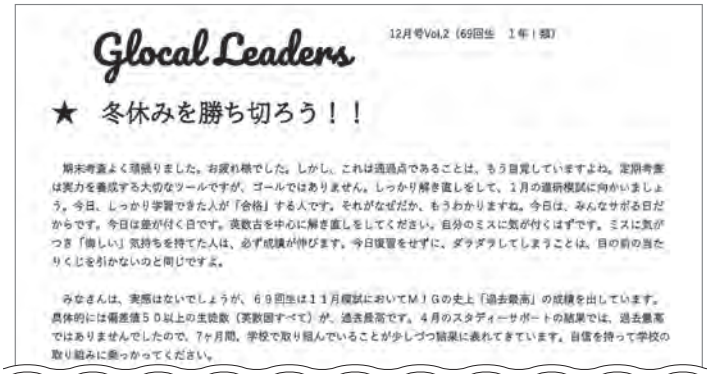
写真　廊下の壁をすごろくに見立てて、朝学習に取り組んだ時間に応じて生徒は自分のシールを移動させる。大学名が書かれた掲示物には、興味を持ったらすぐに調べられるよう、大学のウェブサイトにリンクするQRコードをつけた。

学習習慣の定着と並行して取り組んだのが、生徒を前向きにするための声かけだ。大東先生は、学年集会での講話や学年通信を通じて、「君たちは、こんなに頑張っているんだ。自分が望む結果が得られるに決まっている。だからこそ、努力を続けよう！」と、希望進路の実現をイメージさせる言葉を生徒にかけ続けた（**図**）。同じ学年団に所属する横田直彦先生は、「大東先生の言葉で、生徒の学校への帰属意識が高まった」と話す。

「学年通信では、『過去最高の学年です』と、平素の生徒の努力を認めた上で、『次はこれに取り組めばもっとよくなる』と、その時期の生徒に望む学習行動などを提示していました。生徒たちは、努力が認められたことを通じて、自分たちは本当に過去最高の学年で、みんなで成長してきた集団だと思っているはずです」

もちろん、生徒への言葉には裏づけもある。大東学年団では、1年次からスタディーサポートや模擬試験を実施する度に、「中学校の総復習ができているかを確認しよう」「理科、地理歴史・公民の学力を把握しよう」などと、生徒にそのアセスメントの位置づけや意味を明確に伝え、必要な学習方法を提示してきた。そうした効果もあって、これまで生徒たちは、全国規模の模擬試験などでも例年以上によい結果を出している。

図　学年通信



Glocal Leaders　12月号Vol.2（69回生　1年1期）

★　冬休みを勝ち切ろう！！

期末考査よく頑張りました。お疲れ様でした。しかし、これは通過点であることは、もう目覚していますよね。定期考査は実力を養成する大切なツールですが、ゴールではありません。しっかり解き直しをして、1月の進研模試に向かいましょう。今日、しっかり学習できた人が「合格」する人です。それがなぜだか、もうわかりますね。今日は、みんなサボる日だからです。今日は釜が付く日です。英数古を中心に解き直しをしてください。自分のミスに気が付くはずです。ミスに気がつき「悔しい」気持ちを持てた人は、必ず成績が伸びます。今日復習をせずに、ダラダラしてしまうことは、目の前の当たりくじを引かないのと同じですよ。

みなさんは、実感はないでしょうが、69回生は11月模試においてM）Gの史上「過去最高」の成績を出しています。具体的には偏差値50以上の生徒数（英数国すべて）が、過去最高です。4月のスタディーサポートの結果では、過去最高ではありませんでしたので、7ヶ月間、学校で取り組んでいることが少しづつ結果に表れてきています。自信を持って学校の取り組みに乗っかってください。

大東先生が作成する学年通信には、生徒の学習意欲を喚起する多くの言葉と、その時期に生徒に求められる学習行動や、学校行事の意味などの説明が盛り込まれていた。

※学校資料をそのまま掲載。

「この学校に来てよかった」と、生徒全員に言ってもらえるように

1・2年生の間に志望校をしっかりと掲げ、主体的に学習に取り組めるようになった生徒は確かに増えたと、クラス担任として21年度から3学年団に所属する、進路指導部長の東野寛紀先生は手応えを語る。

「先日の進路面談でも、何人もの生徒から、

＊ 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

1・2学年時の学年主任　現I類部長
大東範行（おおとう・のりゆき）
教職歴24年。同校に赴任して6年目。
地理歴史・公民科。

3学年主任
横田直彦（よこた・なおひこ）
教職歴28年。同校に赴任して3年目。
数学科。

進路指導部長
東野寛紀（ひがしの・ひろき）
教職歴25年。同校に赴任して5年目。
地理歴史・公民科。

3学年副主任・生徒指導部
伊藤伸昭（いとう・のぶあき）
教職歴23年。同校に赴任して5年目。
国語科。

教務部
瀬戸口亜希（せとぐち・あき）
教職歴3年。同校に赴任して4年目。
英語科。

入試相談部
山口哲司（やまぐち・さとし）
教職歴3年。同校に赴任して4年目。
理科。

『この学校に来ていなかったら、今の自分はなかった』といった言葉を聞きました。それは、高校入学時点からの自分の成長を実感できているからこその言葉です。卒業式の日に、全員に『この学校に来てよかった』と言ってもらえることが学年団の目標です」

学年副主任の伊藤伸昭（のぶあき）先生は、学年団の雰囲気がよいのは、クラスや分掌を超えて、教師全員で生徒を育てることを意識できているからだと考えている。

「例えば、生徒に対して生活面の指導が必要になると、それに気づいた教師が、大東先生と一緒にすぐに対処します。『この事案は生徒指導部の担当だ』などと言って、指導のタイミングを逃すことは、この学年団ではありません。生徒一人ひとりのちょっとした変化も本当によく共有できています」

大東先生は、21年度から難関国公立大学合格を目指すコースを統括するI類部長に転任。3学年主任は横田先生が務めている。

「高い目標を目指すようになったからこそ、自分に足りないものを直視し、悩む生徒も出てきました。生徒には、今、味わっている苦労の価値を伝えながら、希望進路の実現を支援していきたいと考えています」（横田先生）

「おとなしかった生徒たちが、挑戦を恐れずに頑張るようになりました。生徒の夢がかなうよう、最後まで前向きな言葉をかけ続け、粘り強く支援していきます」（大東先生）

わくわくする学校を先生方とつくる

田中良樹校長

「生徒がワクワクする学校を一緒につくろう」と、先生方に日々お願いしています。そうした学校をつくるためには、個性を発揮しながら、前向きな気持ちで生徒に接する教師が必要です。もちろん、校長の私も、日々、笑顔で生徒に接しています。

学年団 輝きのポイント

- 生徒が楽しみながら学習習慣を確立できるような企画のアイデアを学年団で出し合い、次々と実行した
- 前向きな言葉を生徒にかけ続けることで、生徒は成長を実感し、学校への帰属意識も高まった